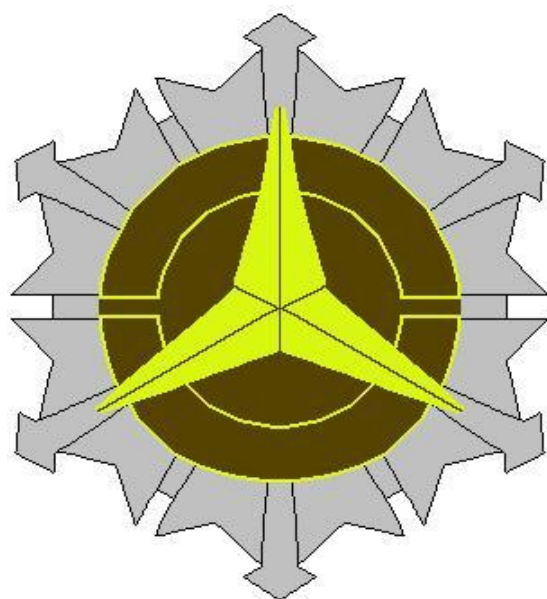


令和5年

消 防 年 報



立山町消防本部

目

次

立山町の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
消防吏員徽章・・・・・・・・・・・・・・・・	2
立山町の消防分布図及び消防機械配置図	3
管内人口動態・・・・・・・・・・・・・・・・	4
消防のあゆみ・・・・・・・・・・・・・・・・	5～12
立山町消防組織図・・・・・・・・・・・・・・・・	13
消防施設の現況・・・・・・・・・・・・・・・・	14
消防職員の定数・実員及び配置状況・・・・・	15
消防機械配置状況・・・・・・・・・・・・・・・・	16
消防車両一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・	17
消防水利の現況・・・・・・・・・・・・・・・・	18
年別通報受信状況・・・・・・・・・・・・・・・・	19
危険物施設数・・・・・・・・・・・・・・・・	20
火災予防条例による届出状況・・・・・・・・・・	20
危険物製造所等倍数別・類別状況・・・・・	21
防火対象物状況	22
火災概況・・・・・・・・・・・・・・・・	23
令和5年火災発生状況総括表・・・・・・・・・・	23
月別火災発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・	24
過去10年間の地区別件数・・・・・・・・・・	24
過去10年間の火災発生状況・・・・・・・・・・	25
過去10年間の火災発生件数と損害額・・・・・	25
救急概況・・・・・・・・・・・・・・・・	26
事故種別出動件数・搬送人員状況・・・・・	26
月別・事故種別救急活動状況・・・・・・・・・・	27
救助・捜索概況・・・・・・・・・・・・・・・・	28
令和5年救助・捜索出動及び活動状況・・・・・	28
過去3年間の救助・捜索出動及び活動状況	28
富山県消防防災ヘリコプター要請状況・・・・・	28

立 山 町 民 憲 章

霊峰立山に抱かれ、常願寺川の清流に育まれるわたくしたち立山町民はこの誇りあるふるさとを愛し、力を合わせて、良い町づくりに努めます。

1. 郷土を愛し 自然を守り 住みよい町づくりに努めます。
2. きまりを守り あいさつをかわし 明るい地域づくりに努めます。
3. 仕事に励み 奉仕の心で 豊かな社会づくりに努めます。
4. 健やかで 笑顔で語らい 楽しい家づくりに努めます。
5. 教養を高め 科学を重んじ 文化の町づくりに努めます。

は し が き

- この年報は、当消防本部における令和5年中の消防業務全般の状況を収録したものであり、今後の消防行政、施策の参考にするとともに、広く一般に紹介し、消防に対する理解を深めていただくことを目的として編集しました。
- この年報については、表の上部等にそれぞれ記載した期日をもって作成してあります。

令和6年4月

立山町消防本部

立 山 町 の 概 要

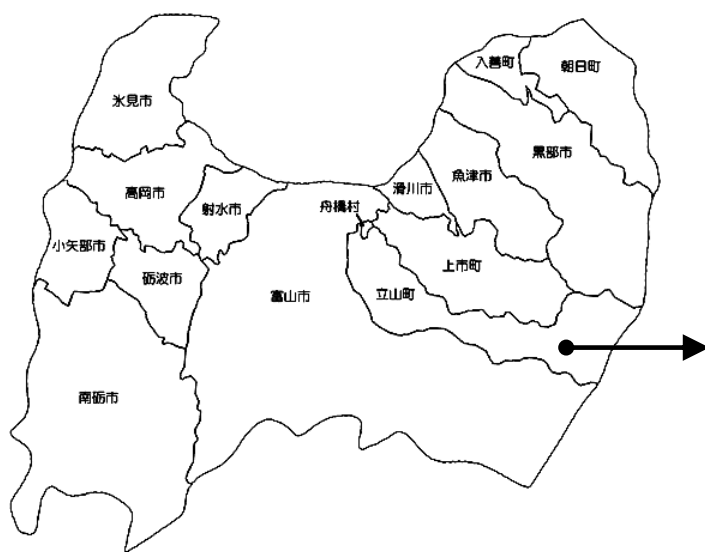
昭和 29 年 1 月 10 日、雄山町を中心に 5 か村（利田、上段、東谷、釜ヶ淵、立山）が合併し
霊峰立山の名にちなんで立山町と命名して発足し、同年 7 月 10 日、新川村の編入合併を経て今
日にいたっている。

本町は、県都富山市から南東よりに位置し、北西部は、一級河川・常願寺川の扇状地であり水
豊かな穀倉地帯である。これが、南東部へおよぶごとに標高が高まり特用林産物の生産地帯へと
移行し、奥地は南北に連なる北アルプス立山連峰を形成している。

気候は、変化に富み、雨や雪が多く、湿度が高い。年間平均気温が 14 度前後で風向きは、温
暖期で南・南西、寒冷期で北東の季節風が多い。

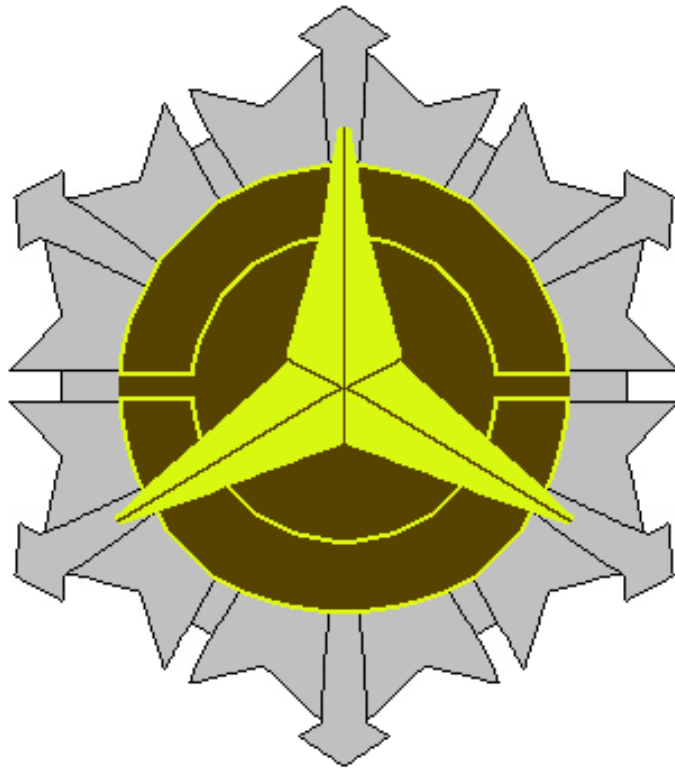
反面、四季の移り変わりが鮮やかなのが特色である。

「人・自然・絆を大切にし、守りながら、みんなが輝く共生のまちづくりに努めます。」を基本
理念とし、「健やかなまち『健康・快適』たてやま、活力のまち『田園・交流』たてやま、学び
のまち『教育・文化』たてやま」を将来像に掲げ、この実現に向けて積極的な施策展開を図って
いる。



- ・ 位置 東経 137° 17' ~ 137° 45
北緯 36° 31' ~ 36° 42
- ・ 面積 総面積 307. 29 k m²
- ・ 人口 24, 499 人
(男 11, 846 人・女 12, 653 人)
- ・ 世帯数 9, 585 世帯

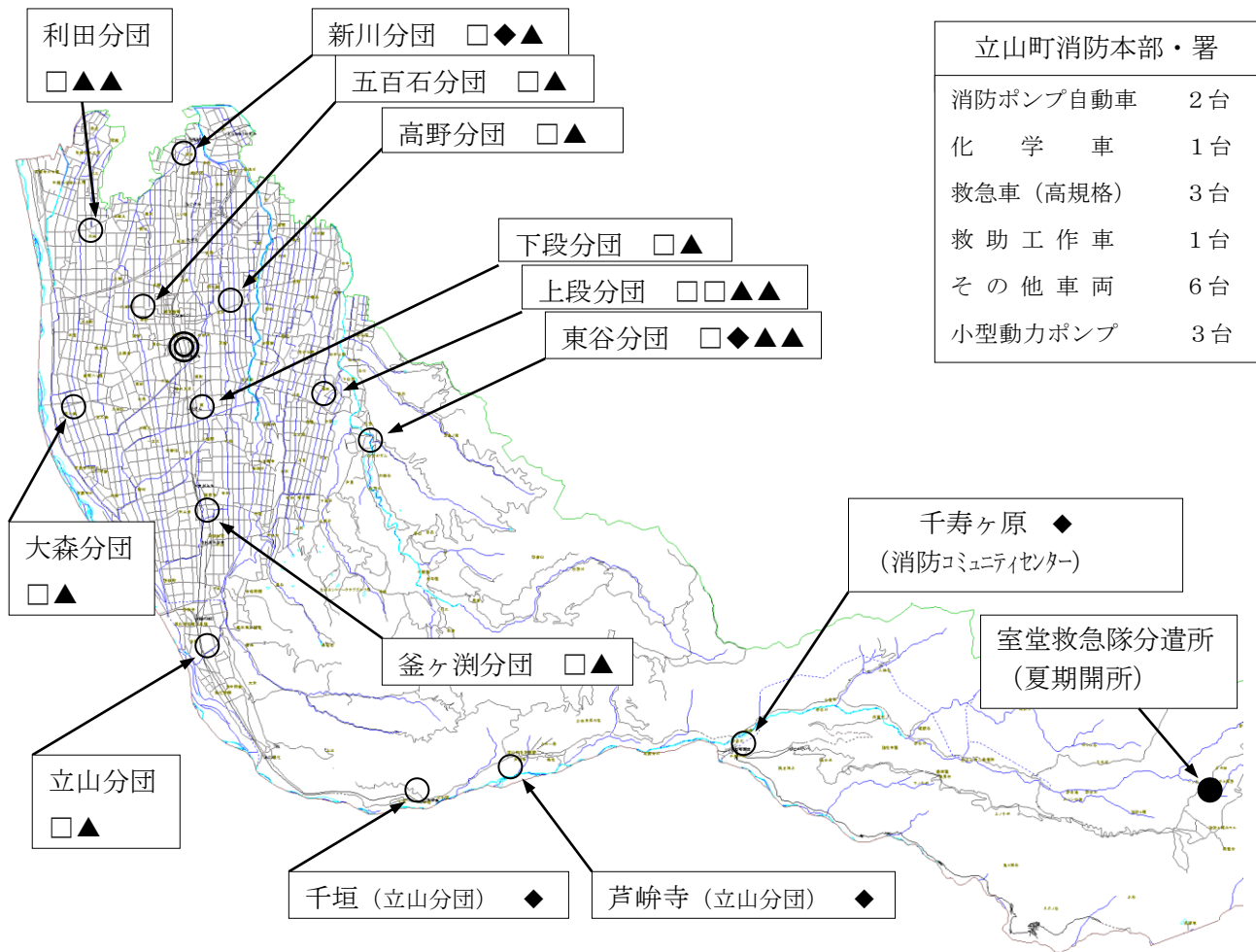
(令和 6 年 4 月 1 日現在)



消 防 吏 員 徽 章

消防マークの中央に町章「立山」の文字を図案化したもので、外輪の丸は行政区域内の融和を意味し、立山の峰を表現する三角錐の合流点を頂点として3つの三角錐は野に山に町に力強く発展する町勢の姿を象徴している。

立山町の消防分布図及び消防機械配置図



記号の解説

- ◎ 消防本部・署
- 分遣所
- 分団詰所・団員詰所
- 消防ポンプ自動車
- ◆ 小型動力ポンプ付積載車
- ▲ 小型動力ポンプ

◇管内人口動態

(令和6年4月1日現在)

区分 地区別	人 口			世 帯 数
	男	女	計	
五 百 石	2,498	2,733	5,231	2,058
高 野	1,141	1,305	2,446	1,028
上 段	656	699	1,355	558
東 谷	171	199	370	167
立 山	924	1,033	1,957	834
釜ヶ渚	763	846	1,609	639
下 段	1,400	1,410	2,810	1,063
大 森	1,206	1,266	2,472	883
利 田	1,628	1,617	3,245	1,172
新 川	1,459	1,545	3,004	1,183
合 計	11,846	12,653	24,499	9,585

※ 参考(各年度国勢調査による)

年 度 別	男	女	計	世 帯 数
昭和40年	13,720	14,166	27,886	5,861
昭和50年	13,178	14,048	27,226	6,446
昭和60年	13,509	14,432	27,941	6,846
平成7年	13,132	14,312	27,444	7,762
平成12年	13,446	14,548	27,994	8,427
平成17年	13,422	14,589	28,011	8,830
平成22年	13,200	14,266	27,466	8,992
平成27年	12,663	13,654	26,317	9,159
令和2年	12,002	12,790	24,792	9,047

立山町消防のあゆみ

昭和 24年	12月	雄山町消防本部(署)を設置し、署員4名・車両1台で発足
25年	12月	職員1名増員(総員5名)
29年	1月	1町5ヶ村を合併し、立山町消防本部(署)設置。立山町消防団が9分団で発足
	1月	初代消防団長 菅原徳三氏就任
	7月	職員1名増員(総員6名)
	7月	新川村を編入合併し10分団となる
	8月	職員1名増員(総員7名)
31年	4月	職員1名増員(総員8名)
	7月	立山町消防団を1団4分団に改編
	12月	職員2名増員(総員10名)
	12月	立山町消防署 東部、南部、北部分遣所を配置
	12月	初代消防署長 住松 實氏就任
33年	8月	消防庁舎竣工(旧庁舎 立山町米沢7の2)
34年	4月	職員3名増員(総員13名)
	12月	消防ポンプ自動車(BS-I型)を購入
37年	4月	職員1名増員(総員14名)
	7月	日中柴山婦人消防隊結成(立山町初)
	8月	第2代消防団長 高平公友氏就任
38年	2月	雪害対策活動中2名殉職(消防司令長 戸田 光氏、消防副団長 林 正明氏)
	4月	第2代消防署長 塚本正生氏就任
	9月	職員1名増員(総員15名)
	12月	消防ポンプ自動車(BS-I型)を購入
40年	12月	南部分団立山班に消防ポンプ自動車(BS-I型)を配置
41年	2月	立山町・大山町消防相互応援協定を締結
42年	4月	指令車(日産 セドリック ワゴン)を購入し、これをもって救急業務を開始
43年	4月	第3代消防署長 信濃信義氏就任
	12月	中部分団五百石班に消防ポンプ自動車(BD-II型)を配置
44年	3月	富山県市町村消防相互応援協定を締結
	4月	職員2名増員(総員17名)
45年	1月	第4代消防署長 浜田清一氏就任
	4月	職員2名増員(総員19名)
46年	3月	日本自動車工業会より救急車(トヨタ 2B型)が寄贈
	4月	職員1名増員(総員20名)
	6月	政令により消防本部 消防署が設置された
	6月	立山道路(有料道路)供用開始 桂台～美女平、室堂まで走行可能となる
	7月	職員1名増員(総員21名)
	7月	美女平分遣所を開設 県から救急車(トヨタ ランドクルーザー)が貸与され立山アルペンルートの救急業務を開始
	10月	職員1名増員(総員22名)
47年	4月	職員1名増員(総員234名)
48年	4月	舟橋村救急業務を受託
	6月	現消防庁舎落成(鉄筋コンクリート2階建一部4階 816.72㎡)立山町米沢36

昭和 48年	10月	県下消防署消防操法大会で初優勝
	12月	北部分団新川班に消防ポンプ自動車(BS－Ⅰ型)を配置
49年	6月	政令により救急業務の実施指定を受けた
	8月	東部分団上段班に消防ポンプ自動車(BS－Ⅰ型)を配置
	10月	中部分団利田班に小型動力ポンプ積載車を配置
50年	3月	殉職職団員13回忌追悼式を営む
	8月	東部分団東谷班に小型動力ポンプ積載車を配置
	8月	南部分団釜ヶ淵班に小型動力ポンプ積載車を配置
	8月	日本船舶振興会寄贈の小型動力ポンプ付積載車を中部分団大森班に配置
51年	4月	消防団条例改正10名増の320名
	9月	中部分団高野班に小型動力ポンプ積載車を配置
	9月	中部分団下段班に小型動力ポンプ積載車を配置
	9月	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車(BD－Ⅰ型)が寄贈され署に配備
52年	2月	第5代消防署長 杉本圭介氏就任
53年	11月	重化学車(日野 Ⅲ型)を購入
54年	4月	職員2名増員(総員25名)
	11月	指令車(日産 グロリア ワゴン)を更新
55年	3月	日本損害保険協会から救急車(トヨタ 2B型)が寄贈
	6月	立山町少年婦人防火委員会を設置
	11月	消防ポンプ自動車(CD－Ⅱ型 署2号車)を購入
	12月	北陸自動車道開通により消防救急業務を開始
	12月	救急車(トヨタ 2B型)を購入
56年	4月	職員2名増員(総員27名)
	4月	立山町消防団を1団10分団に改編
	9月	消防庁舎車庫を増築(鉄骨造折板葺) 109. 679㎡
	10月	消防救急指令装置(消防庁C型)と救急復信無線電話局を設置
	11月	南部分団遺所落成(鉄骨造平屋建) 143. 52㎡
57年	3月	立山地区スタンド協会から指令車(トヨタ コロナ バン)が寄贈
	10月	利田分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 80. 82㎡
	10月	東谷分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 79. 92㎡
	11月	五百石分団の消防ポンプ自動車(CD－Ⅱ型)を更新
58年	8月	日本船舶振興会より広報車(トヨタ バン)が寄贈された
	12月	第3代消防団長 坂井昭二氏就任
59年	2月	釜ヶ淵分団詰所落成(鉄骨造平屋建)79. 92㎡
	2月	大森分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 80. 46㎡
	2月	立山分団の消防ポンプ自動車(CD－Ⅱ型)を更新
	10月	初代消防長 杉本圭介氏就任
	10月	高野分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 80. 82㎡
	11月	資器材搬送車を購入
	11月	下段分団詰所落成(鉄筋コンクリート平屋建。公民館と併設)80. 58㎡
60年	3月	殉職消防職団員23回忌追悼式を営む
	4月	第六代消防署長 村上賢二氏就任
	8月	日本消防協会から小型動力ポンプ積載車(日産)が寄贈され、芦峯詰所へ配置
	11月	上段分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 99. 63㎡

昭和	60年	11月	山之内製薬(株)から救急車(日産 2B型)が寄贈された
	61年	3月	消防庁舎通信指令室増築(鉄骨造平屋建) 7. 8㎡
		11月	新川分団詰所落成(鉄骨造平屋建) 107. 81㎡
		12月	利田分団の小型動力ポンプ積載車(日産)を更新
	62年	4月	第2代消防長 村上賢二氏就任
		4月	立山町婦人消防隊連合会設立
		6月	日本防火協会から防火広報車(いすゞ ファーゴ)が寄贈された
		12月	水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅱ型)を購入
	63年	12月	日本損害保険協会から救急車(いすゞ 2B型)が寄贈された
平成	元年	4月	第7代消防署長 林 善暉氏就任
		7月	条例改正で消防団員定数を323名とする(3名増員)
		12月	救急車(トヨタ 2B型 4WD)を更新
	2年	4月	条例改正により消防職員定数27名(実員27名)となる
		5月	立山町消防団山岳救助協力隊発足
		8月	総合気象観測装置を設置
	3年	1月	高野分団の小型動力ポンプ積載車(日産)を更新
		2月	新川分団の消防ポンプ自動車 (CD－Ⅰ型)を更新
		4月	条例改正により消防職員定数28名(実員28名)となる
		4月	第3代消防長 林 善暉氏就任
		7月	指令1号車 (トヨタ クラウン ワゴン)を更新
		9月	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車(Ⅰ－B型)寄贈
		10月	釜ヶ淵地区婦人消防隊結成
		10月	下段分団に消防ポンプ自動車(旧 署2号車)を配置
		10月	千垣地区、新瀬戸地区に小型動力ポンプ付積載車を配置
		12月	上段分団の消防ポンプ自動車 (CD－Ⅰ型)を更新
		12月	利田分団に消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を配置
	4年	1月	高度情報通信ネットワークが完成
		4月	条例改正により消防職員定数29名(実員29名)となる
		10月	第8回全国婦人消防操法大会(横浜市)に 釜ヶ淵地区婦人消防隊が出場
		12月	消防署訓練塔落成(主塔・鉄骨造5階建、副塔・鉄骨造平屋建)
		12月	立山分団芦峯詰所落成(鉄骨造一部2階建) 98. 85㎡
		12月	東谷分団に消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を配置
		12月	釜ヶ淵分団に消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を配置
	5年	4月	第8代消防署長 坂井繁好氏就任
		4月	富山県防災情報システムを運用開始
		11月	大森分団に消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を配置
		11月	高野分団に消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を配置
	6年	4月	条例改正により消防職員定数30名(実員30名)となる
		8月	日本消防協会から救急車(トヨタ 2B型)が寄贈された
		11月	コミュニティ消防センター(千寿ヶ原)落成 165. 17㎡
		12月	ジープ型指令車(トヨタ ランドクルーザー)を購入
	7年	3月	殉職職団員33回忌追悼式を営む
		4月	条例改正で消防団員定数を325名とする
		5月	新活動服を採用(職員)

平成 7年	6月	消防団「団旗」を更新
	10月	下段分団の消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を更新
	10月	五百石分団詰所落成(鉄骨造二階建) 138. 15㎡
8年	2月	日本消防協会から「まとい」を受領
	3月	高規格救急自動車(トヨタ)を購入
	6月	消防広報車(スズキ エスクード)を更新
	10月	消防職員委員会が発足
	11月	立山分団千垣詰所(鉄骨造二階建)を新築 78. 3㎡
	11月	初の救急救命士が誕生
9年	3月	立山町消防職員協議会結成
	4月	新制服を採用(職員)
	4月	3班3部制勤務を開始
	11月	消防庁舎の耐震調査診断を実施
10年	3月	救助工作車(Ⅱ型)を購入
	10月	五百石分団の消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を更新
11年	4月	第4代消防長 坂井繁好氏就任
	9月	立山分団の消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を更新
	12月	第4代消防団長 舟橋幸甚氏就任
	12月	消防緊急通信指令台(Ⅰ型)の更新
12年	1月	防火衣(東消上下型)の更新
	3月	望楼撤去及び消防無線専用鉄塔30mを敷地内に設置
	4月	第9代消防署長 古田精一郎氏就任
	10月	第5代消防長 古田精一郎氏就任
	10月	庁舎耐震補強工事完成
	12月	立山地区芦峠寺集落に小型動力ポンプ付積載車を配置
13年	3月	山之内製薬(株)から高規格救急自動車(トヨタ)が寄贈(更新配備)
	4月	第10代消防署長 城戸辰雄氏就任
	11月	水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅱ型)を購入
	12月	現場指揮車を購入 (トヨタ)
14年	1月	東谷地区目桑集落に小型動力ポンプ付積載車を配置
	7月	立山町室堂救急隊分遣所開設(美女平分遣所廃止)
	12月	東谷分団詰所を移転(旧白岩生活改善センターを全面改築、車庫新築)189. 9㎡
15年	1月	立山地区千垣集落の小型動力ポンプ付積載車を更新
	4月	第11代消防署長 山林信男氏就任
	4月	新活動服を採用(職員)
	8月	環境 ISO 14001 取得(役場と協調)
	12月	第5代消防団長 高平公嗣氏就任
	12月	災害対応特殊化学消防ポンプ自動車(1,700ℓ水槽、500ℓ薬液槽付き)を更新配備
16年	1月	新川地区女川新集落に小型動力ポンプ付積載車を配置
	3月	南部分遣所廃止 立山分団詰所となる
	4月	第12代消防署長 荒木重光氏就任
	7月	新活動服を採用(団員)
	10月	庁舎防水工事施工

平成 17年	3月	救急自動車(トヨタ 2B型)を救急3号車として更新
	4月	新盛夏服を採用(職員)
	6月	組織機構改革(役場と協調)
	9月	携帯電話による119番通報 直接受信方式となる
	11月	上段地区新瀬戸集落の小型動力ポンプ付積載車(日産)を更新
	12月	日中・柴山婦人消防隊が活動休止
18年	6月	新盛夏服を採用(団員)
19年	4月	第6代消防長 荒木重光氏就任
	4月	消防職員定数30名(実員29名)となる
	6月	薬剤追加講習に救急救命士を派遣養成(1人目)
	10月	消防大学校 消防団長科 高平団長入校
	11月	泉集落に小型動力ポンプ置場新築
20年	4月	第13代消防署長 薄田雅寛氏就任
21年	2月	デジタル無線の県内共通波電波伝搬調査実施
	2月	日本消防協会から指揮広報車(スバル レガシィ)が寄贈 指令1号車として更新配備
	7月	庁舎空調工事第1期完了
22年	1月	東谷(目桑)地区の小型動力ポンプ付積載車車庫改築
	3月	新川分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
	4月	第14代消防署長 佐伯秋雄氏就任
	6月	消防署訓練用地として庁舎南側の貸借地1,120㎡を購入
	8月	芦峠積載車を多機能型小型動力ポンプ積載車(国無償貸与)に更新
	9月	庁舎空調工事第2期完了
	12月	消防署訓練塔主塔一部改修工事完了
23年	1月	都市型ロープレスキュー資器材購入配備
	2月	利田分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
	2月	東部広域消防任意運営協議会枠組みから正式離脱
	3月	東日本大震災発生 緊急消防援助隊(消火隊)を宮城県名取市に派遣
	3月	富山県消防協会中新川支部の発展的解散
	3月	新規採用消防職員を1年間定数外職員とする条例可決(※その後削除)
	4月	第15代消防署長 野村眞太郎氏就任
	4月	富山県防災航空センターへ隊員1名派遣(初)
	4月	新規採用職員3名採用(実員32名)
	7月	富山市と立山町との消防相互応援協定を締結
	10月	舟橋村の救急業務委託を1年間延長する契約を締結
	11月	全消防団員へ冬季活動用防寒衣を貸与
	12月	五百石分団詰所を草野地内に移転新築
	12月	消防補償組合へ東日本大震災関連として追加負担金を納入
	12月	上段分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備
	12月	消防広報車更新配備(日産 エクストレイル)
24年	1月	殉職職団員50回忌追悼式を営む
	2月	災害対応型特殊救急自動車を購入し救急2号車として更新配備
	4月	第16代消防署長 古川信一氏就任
	4月	新規採用職員1名採用(実員32名)
	8月	消防団安全対策設備としてバルーンライト(夜間照明装置)を各分団に配備
	12月	釜ヶ淵分団消防ポンプ自動車(CD-I型)更新配備

平成 25年	3月	日中火の見櫓兼消防器具置場撤去
	3月	消防職員定数、条例改正により32名となる(3月19日付け)
	3月	県東部消防本部消防事務開始に伴い 舟橋村との救急業務委託契約満了
	4月	第17代消防署長 荻生義明氏就任
	4月	新規採用職員2名採用(実員32名)
	8月	災害対策用エアーテント購入
	9月	消防団員用カスタムベスト180着を購入配備
	10月	第7代消防長 荻生義明氏就任
	10月	高速道路救急救助訓練実施(開催地・立山町)
	10月	消防救急デジタル無線整備事業契約 着工
	10月	立山町消防庁舎大規模改修工事(通信指令室増築工事含む)開始
	11月	東谷分団消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)更新配備
26年	11月	消防指令車(2号車)更新配備(日産 エクストレイル)
	11月	アステラス製薬㈱から高規格救急自動車(トヨタ)が寄贈 救急1号車として更新配備
	11月	消防団120周年・自治体消防65周年記念大会参加
	12月	災害対応特殊消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型 600ℓ水槽CAFS付)更新配備
	1月	消防庁舎緊急避難所機能整備工事完成
	1月	消防庁舎通信指令室増築工事完成
	3月	消防庁舎緊急避難所機能整備工事(その2)完成
	3月	消防署敷地内に40㎡耐震性貯水槽設置
	4月	第18代消防署長 金尾光保氏就任
	4月	富山県防災航空センターへ隊員1名を派遣(隊員交替 2人目)
	4月	新規採用職員1名採用(実員32名)
	9月	高機能通信指令システム試験運用開始
27年	9月	大森分団消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)更新配備
	11月	(財)日本損害保険協会から小型動力ポンプ付軽消防自動車(スズキ)が寄贈され 東谷(目桑)の車両を更新。旧車両を千寿ヶ原自主防災組織へ譲渡
	12月	立山町消防庁舎大規模改修工事完了 消防署南側駐車場舗装工事完了
	12月	立山町消防救急デジタル無線整備工事竣工 運用開始
	4月	第19代消防署長 桂沢 誠氏就任
	6月	下段分団(日俣)小型動力ポンプ(4サイクル仕様)購入
	9月	高野分団消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を更新配備
	9月	消防団水防活動用ライフジャケット115着を購入配備
	11月	雪崩災害対策用資器材3セットを購入配備
	12月	消防署員用防火衣(東消型)12着更新
28年	3月	消防庁舎太陽光発電パネル設置工事完了
	3月	第5代消防団長 高平公嗣氏急逝 副団長 田村 保氏が団長代行就任
	4月	第8代消防長 桂沢 誠氏就任(第19代消防署長兼務)
	4月	新規採用職員2名採用(実員33名)
	4月	立山町婦人消防隊連合会を解散し、立山町女性防火クラブを設立
	5月	第6代消防団長 田村 保氏就任
	9月	高野分団詰所を江崎地内に移転新築
	11月	第1回立山町消防フェスティバル2016開催(来場者470名)
	11月	下段分団の消防ポンプ車(CD－Ⅰ型)を更新配備

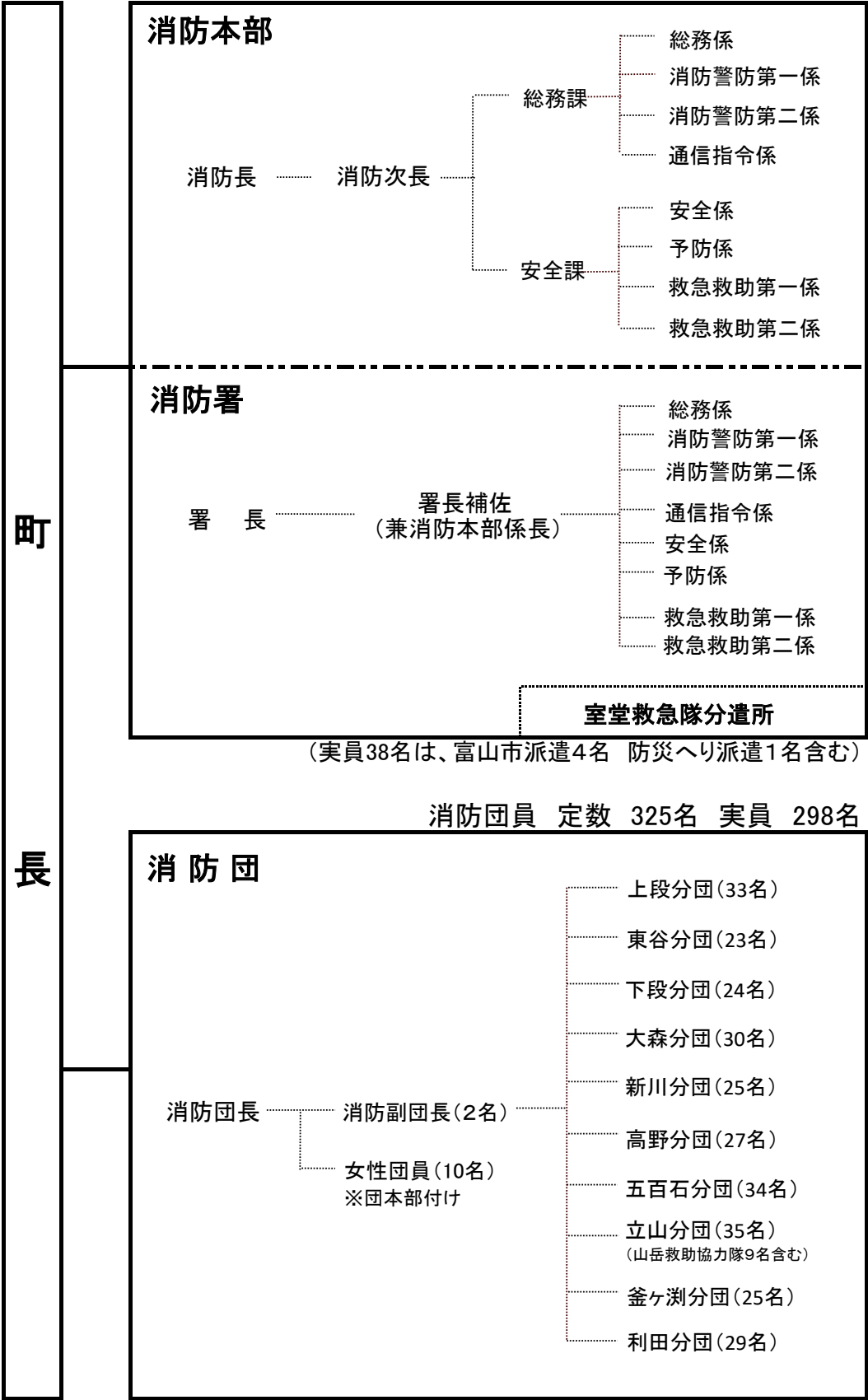
平成 28年	12月	大森分団詰所を東大森地内に移転新築
	12月	日本消防協会から防災広報車(日産NV)が寄贈され広報2号車として配備
29年	1月	消防資機材搬送車(トヨタ)を更新配備
	3月	利田分団詰所移転新築
	4月	立山町消防団応援の店事業を開始
	4月	富山県防災航空センターへ隊員1名派遣(隊員交替 3人目)
	5月	糸魚川大規模火災現地視察を実施
	6月	初の立山町女性消防団員を任用
	7月	遭難対策用無線機2台を購入配備
30年	4月	第20代消防署長 金山 彰氏就任
	4月	新規職員3名採用 役場総務課へ1名異動(実員34名)
	7月	消防署訓練塔ホース吊り機改修
	11月	立山分団消防ポンプ車(CD-I型)更新配備
平成 31年	3月	釜ヶ淵分団詰所を道源寺地内に移転新築
令和 元年	7月	機能別消防団員初採用(4名)
(H31とR元	10月	五百石分団消防ポンプ車(CD-I型)更新配備
は同年)	11月	高規格救急自動車を更新配備(旧2B型救急自動車を更新)
2年	2月	救助資器材搭載型消防ポンプ車(消防庁無償貸付車両)、上段分団(新瀬戸)に配備
	4月	第9代消防長 金山 彰氏就任(消防署長兼務)
	4月	新規職員1名採用(実員34名)
	4月	第7代消防団長 亀山 彰氏就任
	11月	消防庁舎屋上防水補修工事
3年	2月	多機能型消防ポンプ自動車(13m塔体付き車両)新規配備
	3月	上段分団詰所を福田地内に移転新築
	4月	第21代消防署長 西田 治氏就任
	4月	新規職員1名採用 役場総務課へ1名異動(実員34名)
	4月	富山県防災航空センターへ隊員1名派遣(隊員交替 4人目)
	7月	訓練塔副塔昇降用階段設置工事
	9月	東谷分団詰所外壁補修工事
	10月	高速道路救急救助訓練実施(開催地・立山町)
	11月	亀山消防団長 消防大学校(消防団長科)入校
	11月	富山市と消防指令業務の共同運用に関する基本合意書締結
	12月	職員定数条例一部改正 定数36名(令和5年度からの指令業務共同化に向けた増員措置)
4年	1月	現場指揮車更新配備
	4月	新規職員2名採用(実員36名)
	4月	消防団員報酬改正(年額報酬 出動報酬 費用弁償)
	4月	消防指令業務共同化に係るシステム改修業務委託契約(富山市で契約)
	6月	立山町消防署通信指令室 通信機械室 無線設備等改修工事契約(立山町で契約)
	7月	救命ボート 水難救助用資器材購入配備
	7月	自動心臓マッサージシステム(2台目)購入配備
5年	1月	富山市との消防指令業務共同運用開始に先立ち、試験運用のため職員4名富山市へ研修派遣(1月31日～3月31日)

令和 5年	2月	富山市と立山町との消防指令業務に係る事務の委託に関する規約策定(共同運用推進協議会にて両首長合意)
	2月	富山市・富山県東部消防組合・立山町消防相互応援協定書締結(4月1日施行)
	3月	富山市と立山町との消防指令業務に係る事務委託について 3月議会議決
	3月	消防指令業務共同化に伴う、指令システム整備完了
	3月	立山町消防署通信指令室、通信機械室、無線設備等改修工事完了
	3月	東谷分団詰所待機室床改修工事
	4月	富山市との消防指令業務共同運用開始
	4月	第10代消防長 西田 治氏就任
	4月	第22代消防署長 松岡 靖彦氏就任
	4月	新規職員 2 名採用役場総務課へ 1 名異動(実員37名)
	6月	豪雨災害 白岩川ダム緊急放流による白岩川堤防越水(白岩地内)
	7月	豪雨災害 富山県内に初の線状降水帯発生
	10月	中新川地区秋季合同訓練を取り止め 立山町秋季操法大会開催
	11月	立山分団千垣詰所外壁改修工事
	12月	救助工作車(Ⅱ型)更新配備
6年	1月	令和 6 年能登半島地震発生 緊急消防援助隊(救急隊・後方支援隊)を石川県珠洲市へ派遣(1月10日～22日 1次～4次隊)
	4月	新規職員 1 名採用(実員38名)
	4月	富山県防災航空センターへ隊員1名派遣(隊員交替 5人目)

立山町消防組織図

(令和6年4月1日現在)

消防職員 定数36名 実員38名



◇消防施設の現況

(令和6年4月1日現在)

施設名	所在地	電話番号	敷地面積 (㎡)	建築延面積 (㎡)	構 造	竣工年月日	建 築 費 (千円)	備 考
立山町消防本部 (立山町消防署)	米沢36	463-0005 FAX 463-1610	4,722.39	991.19	鉄筋コンクリート造2階建	S.48. 6. 7	消防庁舎(総工費)	50,156
					鉄骨造折版葺	S.56. 9.30	車庫(増築)	11,950
						S.61. 3.28	通信指令室(増築)	3,130
						H.12.10.27	消防庁舎耐震補強工事	13,230
						H.26. 3.24	通信指令室(増築)	31,433
						H.26. 3.24	緊急避難所機能整備工事	26,072
訓練塔	米沢36	—	47.44	主塔168.00 副塔 31.20	鉄骨造5階建 17M 鉄骨造平屋建 7M	H. 4.11.27		33,887
室堂救急隊分遣所	芦峠寺ブナ坂	463-5519	室堂 立山センター内に季節開所(例年7月～10月)					
上段分団詰所	福田622	463-0424	644.73	152.37	木造平屋建鋼板葺	R. 3. 3.12	総工事費	64,904
釜ヶ淵分団詰所	道源寺849	463-2894	470.91	145.75	木造平屋建鋼板葺	H.31. 3.15	総工事費	54,004
利田分団詰所	利田1081-2	463-3229	507.00	146.33	木造平屋建鋼板葺	H.29. 3.15	総工事費	46,856
大森分団詰所	東大森420番2	463-2464	856.19	145.75	木造平屋建鋼板葺	H.28.10.31	総工事費	49,934
高野分団詰所	江崎9番1	462-2170	497.04	144.19	木造平屋建鋼板葺	H.28. 8.31	総工事費	49,088
五百石分団詰所	草野95番1	463-5811	231.68	153.05	木造平屋建鋼板葺	H.23.11.30	総工事費	25,049
東谷分団詰所	白岩12	463-2440	542.30	153.90 車庫36.0(別棟)	補強コンクリートブロック造平屋建 鉄骨造平屋建折版葺	H.14. 9.30	総工事費	19,267
新川分団詰所	浦田408-4	464-1054	807.77	107.81	鉄骨造平屋建折版葺	S.61.11.20	総工事費	14,580
下段分団詰所	榎43	463-3251	1,537.18 (公民館と共同)	80.58	鉄筋コンクリート造平屋建 (公民館併設)	S.59.12.20	総工事費	9,999
立山分団詰所	宮路10-2	483-0300	510.00	143.52	鉄骨造平屋建折版葺	S.56.11. 9	総工事費	21,298
立山分団芦峠詰所	芦峠寺10-1	—	138.40 (借地)	98.85	鉄骨造一部2階建カー 鉄板瓦棒葺	H. 4.12. 3	総工事費	16,304
立山分団千垣詰所	千垣311-1	—	78.61 (借地)	78.30	鉄骨造2階建折版葺	H. 8.11. 6	総工事費	12,051
千寿ヶ原コミュニティー 消 防 セ ン タ ー	芦峠寺ブナ坂50-3	482-1010	291.10	165.17	鉄筋コンクリート造平屋建	H. 6.11.25	総工事費	30,174

◇消防職員の定数・実員及び配置状況

	定 数	実 員
消防職員	36	38

消防職員1名に対する面積 8.09 km²

〃 人口 645 人

〃 世帯数 252 世帯

(令和6年4月1日現在)

階 級 所 属		消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	計
消 防 本 部 ・ 署	消 防 長	1						1
	消防次長・総務課長・安全課長 (消 防 署 長)		1					1
	総 務 係		1	1	2		1	5
	消 防 警 防 第 一 係		1		2		1	4
	消 防 警 防 第 二 係		1		1		1	3
	通 信 指 令 係		1		1		1	3
	予 防 係		2	1	2		1	6
	安 全 係		1	1	1			3
	救 急 救 助 第 一 係		1	1			1	3
	救 急 救 助 第 二 係		1		1		2	4
富山県防災航空センター(派遣)					1			1
富山市消防局通信指令課(派遣)			2		2			4
計		1	12	4	13		8	38

◇消防機械配置状況

(令和6年4月1日現在)

車 種 別 所 属 別		ポンプ車		救 急 車 及 び そ の 他 の 車						
		普通消防ポンプ自動車	化学消防ポンプ自動車 (災害対応)	救急車(高規格)	救助工作車(Ⅱ型)	指令車	現場指揮車	広報車	小型動力ポンプ付積載車	資機材搬送車
常備	消防本部・署	2	1	3	1	1	1	2	1	1
小 計		2	1	3	1	1	1	2	1	1
消 防 団	五百石分団	1								
	高野分団	1								
	下段分団	1								
	大森分団	1								
	利田分団	1								
	上段分団	2								
	東谷分団	1							1	
	立山分団	1							2	
	釜ヶ淵分団	1								
	新川分団	1							1	
小 計		11							4	
合 計		13	1	3	1	1	1	2	5	1

◇消防車両一覧表

(令和6年4月1日現在)

項目 車 両	車 両 メーカ	登 録 年 月 日	機装、種別、級別等	配置場所
ポンプ車	日 野	H 25 . 12 . 9	モリタ A-2 600ℓ水槽	消 防 本 部 (消 防 署)
ポンプ車	日 野	R 3 . 2 . 12	モリタ A-2 900ℓ水槽 MVF	
化学車	三 菱 ふ そ う	H 15 . 12 . 3	モリタ A-2 1700ℓ水槽 500ℓ薬液	
救助工作車	日 野	R 5 . 12 . 12	帝国繊維 II 型	
救 急 車	ト ヨ タ	H 25 . 11 . 20	高規格	
救 急 車	ト ヨ タ	H 24 . 2 . 17	高規格	
救 急 車	ト ヨ タ	R 1 . 11 . 19	高規格	
指 令 車	日 産	H 25 . 11 . 14	ステーションワゴン	
広 報 車	日 産	H 23 . 12 . 16	ステーションワゴン	
広 報 車	日 産	H 28 . 12 . 1	ミニバン(非緊急車両)	
現 場 指 揮 車	日 産	R 4 . 1 . 24	1BOX	
資 機 材 搬 送 車	日 野	H 29 . 1 . 31	2tトラック	
千寿ヶ原積載車	ダ イ ハ ツ	H 13 . 12 . 17	千寿ヶ原地区に貸与	本部管理
五 百 石 分 団 車	日 野	R 1 . 10 . 16	モリタ A-2	五 百 石
立 山 分 団 車	い す ゞ	H 30 . 11 . 12	モリタ A-2	立 山
下 段 分 団 車	日 野	H 28 . 11 . 18	モリタ A-2	下 段
高 野 分 団 車	い す ゞ	H 27 . 9 . 28	モリタ A-2	高 野
大 森 分 団 車	日 野	H 26 . 9 . 12	モリタ A-2	大 森
東 谷 分 団 車	日 野	H 25 . 10 . 21	モリタ A-2	東 谷
釜ヶ淵分団車	い す ゞ	H 24 . 11 . 19	モリタ A-2	釜 ヶ 淵
上 段 分 団 車	い す ゞ	H 23 . 11 . 21	モリタ A-2	上 段
利 田 分 団 車	日 野	H 23 . 2 . 10	モリタ A-2	利 田
新 川 分 団 車	日 野	H 22 . 2 . 12	モリタ A-2	新 川
新瀬戸ポンプ車	い す ゞ	R 2 . 2 . 3	モリタ A-2 救助資機材搭載型 国無償貸与車両	上 段 新 瀬 戸
目 桑 積 載 車	ス ズ キ	H 26 . 11 . 19	可搬式ポンプ積載車	目 桑
女 川 新 積 載 車	ダ イ ハ ツ	H 15 . 12 . 17	可搬式ポンプ積載車	女 川 新
千 垣 積 載 車	ダ イ ハ ツ	R 6 . 3 . 15	可搬式ポンプ積載車 国無償貸与車両	千 垣
芦 峯 積 載 車	い す ゞ	H 22 . 7 . 22	シバウラ 救助資機材搭載型 国無償貸与車両	芦 峯

◇消防水利の現況

(令和6年4月1日現在)

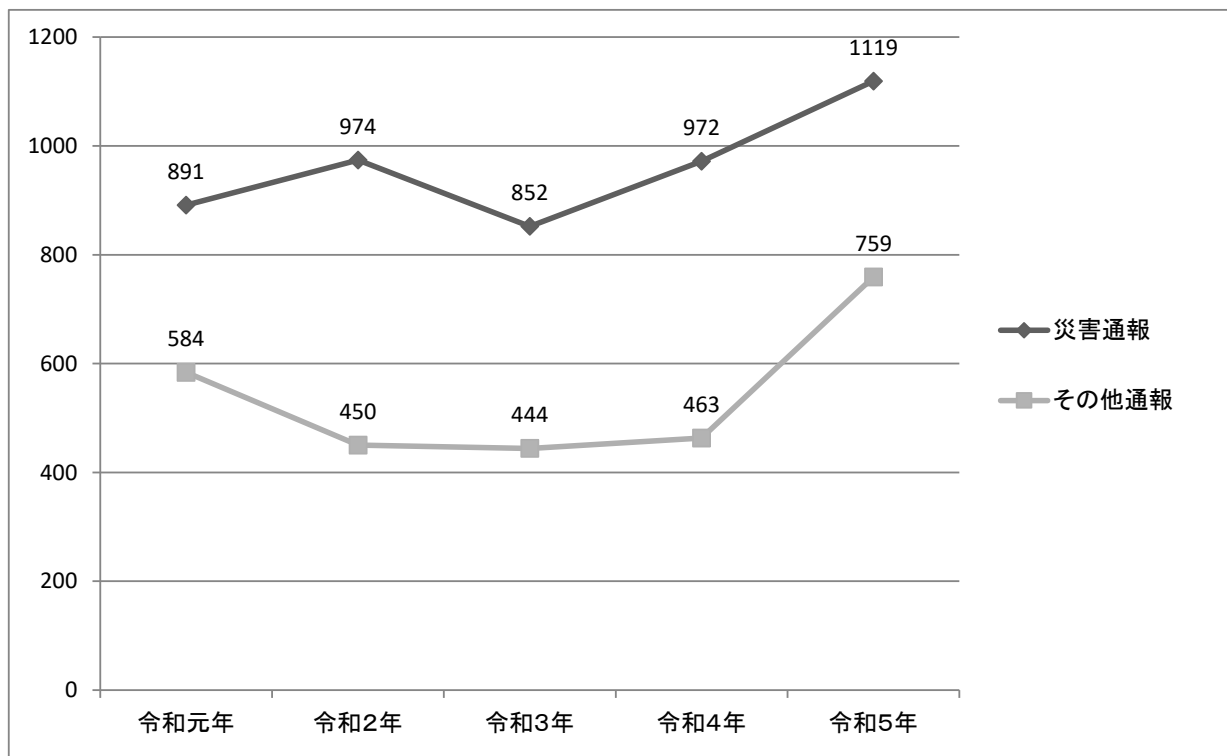
現 有 消 防 水 利									
種別 地区	消 火 栓			防 火 水 槽				プ ー ル	計
	公 設		私 設	公 設		私 設			
	地 上 式	地 下 式		有蓋	無蓋	有蓋	無蓋		
五 百 石		107	1	8				1	117
高 野		63		1		1		1	66
下 段		71		5					76
大 森		56		8					64
利 田		61	1	2		3		1	68
上 段	2	43		7		2			54
東 谷	1	25		7	8				41
立 山	39	88		6	4	1			138
釜 ケ 淵	1	28		3				1	33
新 川		83	5	4	1	1		1	95
計	43	625	7	51	13	8		5	752
				64		8			

◇年別通報受信状況

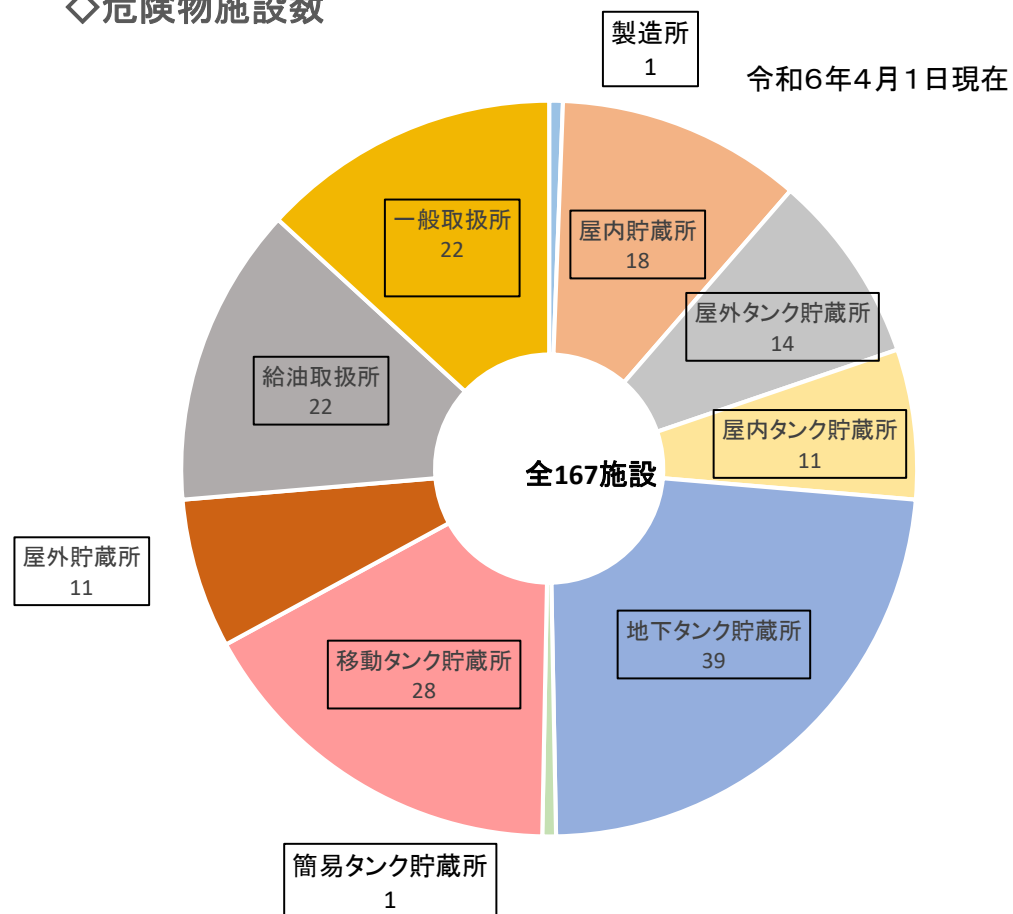
		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	計
災害通報 (件)	火災通報	4	8	8	4	4	28
	救急救助通報	885	965	840	963	1,088	4,741
	その他災害通報	2	1	4	5	27	39
災害通報小計		891	974	852	972	1,119	4,808
その他の通報 (件)	訓練	164	183	162	185	131	825
	試験	303	175	178	154	294	1,104
	いたずら	6	2	2	6	1	17
	間違い	43	43	43	46	140	315
	問い合わせ	68	47	59	72	68	314
	その他					125	125
その他の通報小計		584	450	444	463	759	2,700
合計		1,475	1,424	1,296	1,435	1,878	7,508

※「その他災害通報」は、火災・救急救助以外の災害通報となります。

※「その他の通報(その他)」は、訓練、試験、いたずら、間違い、問い合わせに該当しない通報となります。



◇危険物施設数



◇火災予防条例による届出状況

届出種別	発電設備	変電設備	蓄電設備	炉設備	ボイラ―設備	乾燥設備	給湯湯沸設備	サウナ設備	その他設備	少量危険物貯蔵取扱	指定可燃物貯蔵取扱
計	38	137	66	52	157	13	13	7	15	240	35

◇危険物製造所等倍数別・類別状況

(令和6年4月1日現在)

製造所等の別		製造所	貯蔵所								取扱所				合計
			屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外	小計	給油	販売	一般	小計	
倍数別	5倍以下		7	4	2	24	1	25	6	69	5		9	13	82
	5倍を超え 10倍 以下		5	2	6	7				20	1		10	12	32
	10倍を超え 50倍 以下	1	5	4	3	7		2	5	27	5		3	8	35
	50倍を超え 100倍 以下		1	4		1		1		7	4			4	11
	100倍を超え 150倍 以下									0	4			4	4
	150倍を超え 200倍 以下									0				0	0
	200倍を超え 1000倍 以下									0	3			3	3
	1000倍を超えるもの									0				0	0
	合 計	1	18	14	11	39	1	28	11	123	22	0	22	44	167
類別	第 1 類									0				0	0
	第 2 類									0				0	0
	第 3 類									0				0	0
	第 4 類		15	14	11	39	1	25	11	116	22		22	44	160
	第 5 類		1							1				0	1
	第 6 類							3		3				0	3
	混 在	1	2							3				0	3
	合 計	1	18	14	11	39	1	28	11	123	22	0	22	44	167

◇防火対象物状況

(令和6年4月1日現在)

用 途 別		消防用設備等 必要対象物	防火管理者 必要対象物
(1)	イ 劇場、映画館、演芸場又は観覧場		
	ロ 公会堂又は集会場	15	14
(2)	イ キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等	1	1
	ロ 遊技場又はダンスホール		
	ハ 性風俗関連特殊営業を営む店舗等		
	ニ カラオケボックス等		
(3)	イ 待合、料理店等	1	0
	ロ 飲食店	52	13
(4)	百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗又は展示場	35	17
(5)	イ 旅館、ホテル、宿泊所等	49	28
	ロ 寄宿舍、下宿又は共同住宅	37	4
(6)	イ 病院、診療所、助産所	7	1
	ロ 特別養護老人ホーム、救護施設、老人短期入所施設 乳児院、障害児入所施設、介護老人保健施設等 障害者支援施設等	17	14
	ハ 老人デイサービスセンター、更生施設、軽費老人ホーム 老人福祉センター、保育所、児童養護施設等、身体障害者福祉 センター	25	15
	ニ 幼稚園又は特別支援学校		
(7)	小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校等	16	11
(8)	図書館、博物館、美術館等	6	5
(9)	イ 公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場	1	1
	ロ イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場		
(10)	車両の停車場又は船舶若しくは航空機の発着場	5	5
(11)	神社、寺院、教会等	9	0
(12)	イ 工場又は作業場	199	17
	ロ 映画スタジオ又はテレビスタジオ		
(13)	イ 自動車車庫又は駐車場	16	0
	ロ 飛行機又は回転翼航空機の格納庫		
(14)	倉庫	104	0
(15)	前各項に該当しない事業場	121	20
(16)	イ 特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	31	25
	ロ 上記以外の複合用途防火対象物	9	3
(16の2)	地下街		
(16の3)	地階で連続して設けられた地下道に面して設けられたものと 地下道とを合わせた物		
(17)	重要文化財、重要美術品建造物等	5	1
(18)	延長≧50mのアーケード		
(19)	市町村長が指定する山林		
(20)	総務省令(規5-10)で定める舟車		
計		761	195

火 災 概 況

令和5年における火災発生件数は2件で、前年より2件減となりました。
 火災種別は、林野火災が1件、その他火災が1件であり、損害額合計は403千円で、前年に比べ1,427千円の減少となっています。焼損面積は0㎡(立木1本)となっています。火災による死傷者は0名でした。

◇令和5年火災発生状況総括表

件 数		1	2
区 分			
火 災 種 別		その他	林野
出 火 月 日		1月1日(日)	8月23日(水)
出 火 時 刻 (推 定)		1時15分	14時00分
天 候		雨	雨
湿 度(%)		96.6	88.0
風 向		南南西	南南東
風速(m/s)		1.1	5.9
気 温(℃)		3.7	25.8
出 火 地 区		立山	立山
出 火 原 因 (推定含む)		調査中	落雷
焼損面積(㎡)		—	(立木1本)
焼 損 棟 数	全 焼		
	半 焼		
	部 分 焼		
	ぼ や		
	計		
罹 災 世 帯 数	全 損		
	半 損		
	小 損		
罹 災 人 員			
死 傷 者	死 者		
	負 傷 者		
損 害 額 (千 円)	建 物		
	収 容 物	403	
	そ の 他		
	計		
住宅用火災警報器 設置状況			

◇月別火災発生状況

内 記 月 別	出 火 件 数					焼 損 棟 数					焼損面積 (㎡)	損害額 (千円)
	計	建 物	林 野	車 両	そ の 他	計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や		
1	1				1							403
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8	1		1									
9												
10												
11												
12												
合 計	2		1		1							403

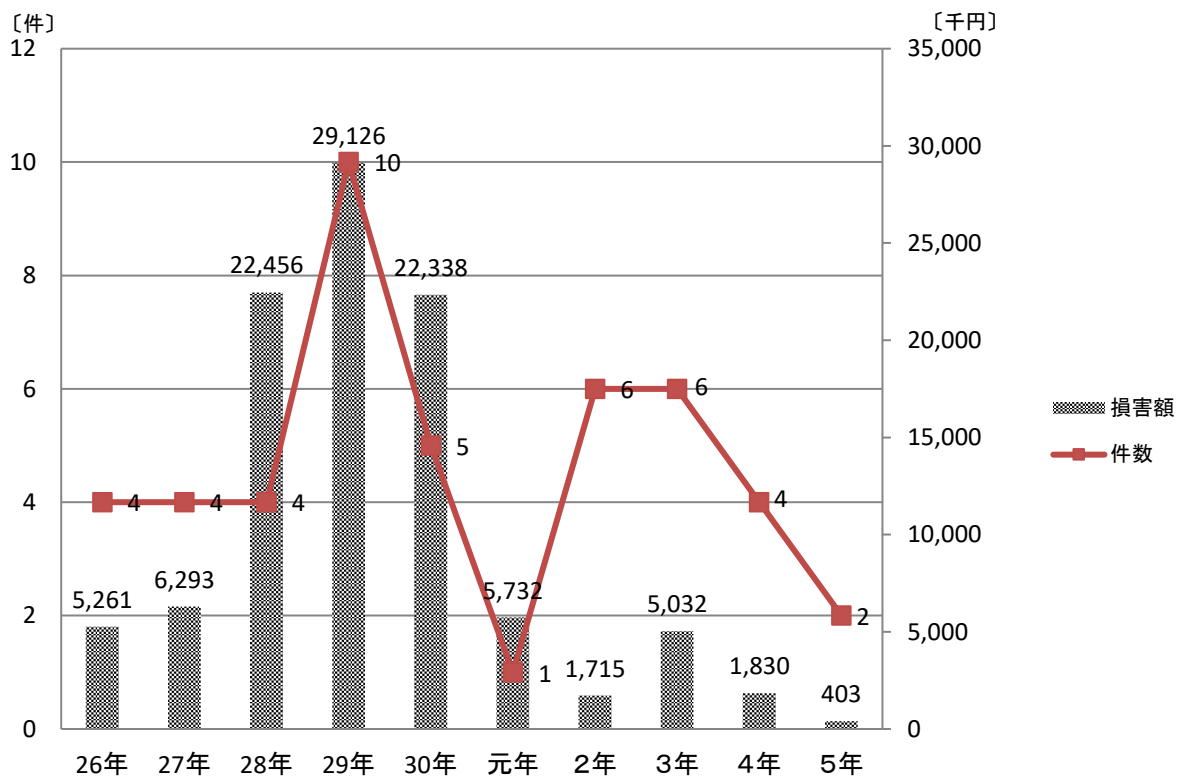
◇過去10年間の地区別件数

年 地 区	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	合 計
五百石	1	1			1			1	1		5
高 野					1		1		1		3
上 段	1		1								2
東 谷								1			1
立 山			2	4	1	1	1	2	1	2	14
釜ヶ淵	1			3				1			5
下 段				1	1						2
大 森		1	1								2
利 田	1			2	1		2	1			7
新 川		2					2		1		5
合 計	4	4	4	10	5	1	6	6	4	2	46

◇過去10年間の火災発生状況

区分 年	件数 (件)	焼 損 面 積				損 害 額(千円)
		建 物(m ²)	表面積(m ²)	林野・その他	車両	
平成 26	4	159.00			5台	5,261
平成 27	4	264.00		1基	2台	6,293
平成 28	4	801.00		41a		22,456
平成 29	10	334.00	38.00		3台	29,126
平成 30	5	780.00	4.00			22,338
令和 元	1	214.00	2.00			5,732
令和 2	6	0.49	0.36		4台	1,715
令和 3	6	162.20	25.80	6400	1台	5,032
令和 4	4	0.00	0.00		1台	1,830
令和 5	2	0.00	0.00	立木1本		403
平均	4.6					

◇過去10年間の火災発生件数と損害額



救 急 概 況

令和5年中の救急出動件数(立山黒部アルペンルート、北陸自動車道を含む)は、1,324件で前年比140件増加、搬送人員は、1,231人で前年比131人増加となりました。

事故種別では、急病事故930件(70.2%)、一般負傷事故196件(14.8%)、転院搬送81件(6.1%)交通事故62件(4.7%)となりました。

立山黒部アルペンルートの出動件数は、62件で前年と同数となりました。

北陸自動車道の出動件数は、1件で前年比1件減となりました。

○事故種別出動件数・搬送人員状況

事故種別 区 分	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計
											転 院	医 師	資 機 材	そ の 他	
出 動 件 数 (件)			1	62	16	4	196	2	15	930	81			17	1,324
搬 送 人 員 (人)				57	17	3	183	2	11	879	79				1,231

○月別・事故種別救急活動状況

単位： 上段：件
下段：人

事故種別 月 別		火 災	自然 災害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計
												転 院	医 師	資 機 材	そ の 他	
1	出動件数				9	2		14		1	70	6				102
	搬送人員				10	2		14			69	6				101
2	出動件数				2			8			46	7			5	68
	搬送人員							7			45	7				59
3	出動件数				5	1		13		1	73	9				102
	搬送人員				3	1		13		1	71	9				98
4	出動件数				5	2		31		3	60	10				111
	搬送人員				4	2		30			58	10				104
5	出動件数			1	4		1	25		1	75	6			1	114
	搬送人員				4			24		1	69	6				104
6	出動件数				4	4		6	1	1	67	2				85
	搬送人員				4	4		6	1	1	63	2				81
7	出動件数				8	1	1	17	1	2	106	8			1	145
	搬送人員				9	1	1	16	1	2	100	6				136
8	出動件数				6	2	1	22		2	118	8			4	163
	搬送人員				6	2	1	19		2	110	7				147
9	出動件数				7	4		15		2	98	11			1	138
	搬送人員				5	5		12		2	90	11				125
10	出動件数				7		1	19		1	65	5			2	100
	搬送人員				5		1	17		1	60	5				89
11	出動件数				3			11		1	68	5			1	89
	搬送人員				5			10		1	64	5				85
12	出動件数				2			15			84	4			2	107
	搬送人員				2			15			80	5				102
計	出動件数			1	62	16	4	196	2	15	930	81			17	1,324
	搬送人員				57	17	3	183	2	11	879	79				1,231

救 助 ・ 捜 索 概 況

令和5年中の救助出動件数は14件で、前年比2件減となりました。捜索出動件数については0件です。
富山県消防防災ヘリコプターの要請件数は7件でした。

○令和5年救助・捜索出動及び活動状況

区 分 \ 月			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
救 助 件 数 (件)				1	1	2		1	5		2	2			14
捜 索 件 数 (件)															
救 助 ・ 捜 索 人 員 (人)				1		1		1	4		1				8
事 故 種 別 出 動 件 数 (件)	火 災	建 物													
		建物以外													
	交 通 事 故			1	1				4		1				7
	水 難 事 故							1							1
	風 水 害 等 自 然 災 害														
	機 械 に よ る 事 故														
	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故														
	爆 発 事 故														
	建 物 等 に よ る 事 故											1			1
	そ の 他 の 事 故					2			1		1	1			5
	捜 索														
合 計				1	1	2		1	5		2	2			14

○過去3年間の救助・捜索出動及び活動状況

区 分 \ 年	令和3年	令和4年	令和5年
救 助 件 数 (件)	12	16	14
捜 索 件 数 (件)	2		
救 助 ・ 捜 索 人 員 (人)	11	15	8

○富山県消防防災ヘリコプター要請状況

区 分 \ 年	令和5年
救 助 要 請 件 数 (件)	2
救 急 要 請 件 数 (件)	2
そ の 他 要 請 件 数 (件)	3
搬 送 人 員 (人)	4

消 防 年 報

令和6年5月発行

立 山 町 消 防 本 部

〒930-3265

富山県中新川郡立山町米沢36

TEL (076) 463-0005

FAX (076) 463-1610

Email syoubou@town.tateyama.lg.jp